

政務調査研究視察 報告書 平成19年3月27日提出

視 察 日	平成19年2月26日(月) AM9:30～
視 察 先	北海道 札幌市
視 察 内 容	札幌市まちづくりセンターについて
視 察 者	澤豊・永田寛 計2名
札幌市	<p><札幌市まちづくりセンターについて></p> <p>札幌市は道庁所在地で北海道の政治・経済・文化の中心であり、人口は100万人を超える大都市である。市民と共に協議をしながら市民自治のまちづくりを推進している。市民自治のまちづくりの基本である、市民参加を積極的に進めるために、市内87ヶ所に「まちづくりセンター」を設置して、市民活動の拠点としている。岡崎市の今後のまちづくり行政の参考とするため視察を行った。</p>  <p>▲まちづくりセンター</p> <p>「まちづくりセンター」は札幌市内に87箇所もあり、まちづくりのコーディネーターとして、地域住民と連携しながらさまざまなまちづくり活動を推進している。今回はその内のひとつである「鉄西まちづくりセンター」を実際に見学し、センターの伊藤所長から色々と話しを伺った。</p> <p>まちづくりセンターの具体的な仕事内容としては、①まちづくり活動のお手伝い②住民組織のネットワーク化③情報交流できる場所の整備④各種照明の取次ぎ、などである。センター所長は、市役所から職員が派遣され各種業務にあたっている。他に地域の住民を臨時職員として採用するなどしているがひとつのセンターにいる職員は平均2～3人とのことであった。</p> <p>人口約12,000人にひとつのセンターが設置されている計算になり、より地域に密着した業務内容が求められているとのことである。地域の行事や活動等をセンター長は全て把握しており、地域と行政とのパイプ役となっている。ただ、あくまでセンターは行政と町内会や商店街、企業の連携のパイプ役であり、住民自治の体制確立を支援するのが目的である。</p> <p>住民票や各種照明もセンターへ行って申請しておけば翌日には完成しており、わざわざ支所や市役所まで行かなくても手に入れることができ評判は良いようである。反面、行政への不満や要望もすべて聞くことになり、様々な意見を地域住民からもらい、本庁へ持ち帰って検討材料とするとのことである。各まちづくりセンターをまとめているのが本庁の地域振興部振興課であり、まちづくりを総合的に支援している。各センターのまちづくり事例集などを作成して情報交換をお手伝いしている。このようなセンターは、全国でも非常に珍しく、多くの自治体や議員などが視察に来るそうである。</p>
	<p>【感想・岡崎市への反映】</p> <p>まちづくりセンターは従来「連絡所」と呼ばれており本当に連絡業務だけを行っていたようであるが、市民自治のまちづくり体制を強力に推進したいとの主旨でセンターの設置に至ったようである。</p> <p>岡崎市も市民主導型の行政ということで各種取り組みを行っているが、札幌市のように出来るだけ地域住民が「自分たちでまちづくりを行う」という意識を持っていただくような施策を展開していくことも重要であると思う。</p>

政務調査研究視察 報告書 平成19年3月27日提出

視 察 日	平成19年2月26日(月) PM2:00～
視 察 先	北海道 恵庭市
視 察 内 容	恵庭市郷土資料館について
視 察 者	澤豊・永田寛 計2名
恵庭市	<p><恵庭市郷土資料館について></p> <p>恵庭市は人口67,000人であるが札幌駅からJRで20分新千歳空港まで13分という良好な交通条件から企業立地や宅地開発も活発であり、道内有数の成長都市である。</p> <p>恵庭市はもともと市内の埋蔵文化財保護に力を入れていたが、数年前に道路工事の発掘調査で見つかった約3000年前の遺跡が、大変な価値がありH17年に国史跡として指定を受けたことから埋蔵文化財保護事業をよりいっそう進めることになった。</p> <p>その文化財保護事業を中心に進めているのが、市の郷土資料館である。岡崎市の埋蔵文化財保護の参考とするため郷土資料館の視察を行った。当日は閉館日にもかかわらず館長の水高和彦氏が詳しく案内と説明を下された。</p> <p>埋蔵文化財は文献資料が残されていない時代にあっては、当時の人々の生活の様子を知る唯一の歴史的・文化的資料である。工事等で一度破壊されると二度と元に戻すことはできないことから、可能な限り現状で保存して学術研究などの活用することが望ましい。館長によると、遺跡の内容や範囲等を総合的に判断して各工事等の計画見直しによる現状保存や記録による保存が必要となり、その判断が大変難しいとのことである。</p> <p>郷土資料館の仕事のひとつが、国指定された遺跡の保存と有効活用に向けた整備計画の策定事業である。恵庭市では、史跡整備検討策定委員会を設置し、市民から広く意見を集めている。例えば、市の広報に募集広告を記載したり、市のHPでアイデアを募集するなど広報に努めている。</p> <p>また、遺跡の保存と有効活用に向けた市民フォーラムを開催してパネルディスカッションを開いたり有名大学の学長を招いての特別基調講演会を開催したとのことである。行政だけが保存を行っていくのではなく、市民全体で貴重な遺跡を保存し活用していく、という気運を高める主旨で事業を進めている。</p> <p>資料館もただ展示を行っているだけでなく、講演会や見学会、体験学習会など多くのイベントを開催し、1人でも多くの市民に資料館へ来てもらい文化財保護や国指定を受けた遺跡の有効活用に意識を持ってもらおうと努力をしている。</p> <p>限られた予算の中で職員がアイデアを出しており、その熱意に大変感心をした。岡崎市の保護事業にも大変参考になった。</p>
	<p>【感想・岡崎市への反映】</p> <p>郷土資料館を訪ねて驚いたのが、職員の熱意であった。当日は休館日であったが視察ということでわざわざ中で作業をしていた館長や学芸員の方が詳しく説明を下された。せっかく指定を受けた遺跡や市内の埋蔵文化財は、市民みんなで保護していくようにしていかないといけないので出来る範囲で徹底して市民へアピールをしていく、という館長の言葉が印象的であった。</p> <p>岡崎市も史跡岡崎城後整備計画が進められていくと思うが、有識者だけではなく広く市民の声を聞きより有効的な整備計画を策定していくべきではと思う。</p>



▲郷土資料館

政務調査研究視察 報告書 平成19年3月27日提出

視 察 日	平成19年2月27日（日）
視 察 先	北海道 夕張市
視 察 内 容	夕張市美術館について
視 察 者	澤 豊 ・ 永 田 寛 計 2 名
夕 張 市	<p><夕張市美術館について></p> <p>夕張市は北海道のほぼ中央に位置する標高約 200mの高原都市である。かつては国内有数の石炭のまちとして発展してきたが、現在炭鉱はゼロになり夕張メロンの産地として知られている。</p> <p>平成18年に深刻な財政難のあおりを受けて、本年財政再建団体に指定された。その関係で夕張市美術館も本年3月末で閉鎖されるとのことである。</p>  <p>▲夕張市美術館</p> <p>そのような中視察したのは、夕張市美術館は戦中、戦後の石炭産業の繁栄期から今日に至るまでさまざまな画家たちが描いた夕張の風景や、夕張ゆかりの書家、写真家等の作品を中心に展示を行っているからである。そうした常設展の他、独自企画展や市民の発表展、子供のための「わくわくプロジェクト事業」などを行っており、岡崎市の美術館等の参考とするため視察を行った。</p> <p>当日は、美術館館長の“上木和正”氏と学芸員の“源藤隆一”氏が案内と説明をして下さった。上木館長は、「美術館は市民が集うギャラリーであり、夕張ならではの文化を市民や市外へ発信していきたい」という思いのもと、夕張美術館運営のための88年に故郷である夕張にUターンしてきたとのことである。</p> <p>メインコレクションは、夕張に生まれ夕張で育った作家たちの作品、今の夕張の姿を描き出した作品、炭鉱労働者たちがその生活体験を背景に生み出した作品、地元夕張をモチーフに制作された現代アートなどである。夕張市美術館はこれらの特徴的な作品を長年にわたり発掘し収集するとともに、それらに焦点を当てた展覧会を開催してきた。現在同館で開催されている特別展「夕張美術館の軌跡」がその集大成とのこと。</p> <p>財政的な理由であるにせよ、閉館は今まで美術館が歩んでいた活動が中絶されることである、なんとか今までの活動の意義が引き継がれて夕張の発展に貢献できれば、という館長の言葉が印象的であった。今後については、市民有志によって施設の存続や活動の継続に向けた話し合いがなされているそうである。</p> <p>また、夕張市の観光施設の運営を一括受託した業者は、美術館の運営も併せて受託したいとの申出もあったそうである。まだ確定ではないが、美術館存続の兆しが見えてきたのは大変喜ばしいことである。</p> <p>今回の閉館問題によって改めて地元の美術館への思い入れが高まったようである。これだけ地元市民に理解された活動を展開している美術館も大変珍しく参考になった。</p>
	<p>【感想・岡崎市への反映】</p> <p>美術館がその地元の文化発信をメインテーマにし、地域の活性化などに貢献し成功した例は全国でも珍しいと思う。少なくとも夕張美術館は開館以来四半世紀にわたり、夕張文化の発信をテーマにした活動をし、少なからず夕張のアピールに寄与してきた。</p> <p>夕張市は、炭鉱で発展してきたという独自の背景があるが、実際に見学をすると夕張市の歩んできた背景や文化がよく理解できる。岡崎市も歴史があり独自の文化をもつ都市である。今後未来に岡崎市の歩んできた背景や文化を夕張のように形として残していくことも大変重要であると思う。</p>